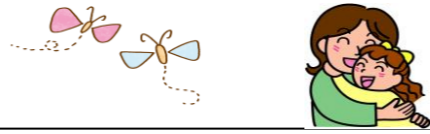


幼い頃、「幸せ」とはお出かけをすること、好きなものを食べることなど、特別な出来事があって感じるものだと思っていました。しかし、最近の私は「幸せ」と感じる瞬間に少し変化が起こっています。学校で友人と何気ない会話をすること、家で両親と食卓を囲むこと、一人暮らしの兄と電話でくだらない話を延々と繰り返すこと、そうした日常の何気ない場面でふと自分が幸せであると感じるのです。

1年半ほど前、学校で「自分の生き立ちについて」という題でレポートを書くようにと課題を出されました。私は家庭について「決して裕福ではないが幸せな家庭に育った」と書きました。思い出されるのは何気ない日常風景ですが、いつも父と母の優しい笑顔が近くにあることに気が付いたからです。そうした「小さな幸せ」を感じるようになってきたということは、私も人として成長できているということなのでしょう。

今年の4月から大学4年生、自分の将来を決める大切な時期となります。21年間、たくさんの幸せを与えてくれた両親や多くの人々への恩返しも兼ね、今度は私が皆さんに幸せを与える存在になりたいと思います。



患者さんからのお手紙 ..募金箱によせて..

12月に退院した者です。ボランティアの方々の活躍のおかげで入院生活にも彩りがあつた気がします。ほんの少しですが、寄付いたしました。ありがとうございます。

募金箱へのお手紙をご紹介します。



皆様からの募金は、1階ブックトラックにある移動図書用雑誌や院内に飾ってある生花の購入に充てております。患者さんから待ち時間に「雑誌を読んだり、お花を眺めたりで和みました。」などと声をかけていただいています。

ご存知でしょうか。院内の2箇所ボランティア「ひだまり」の募金箱を設置しています。



1階ロビー・会計隣の募金箱



コンビニレジ前の募金箱

編集後記

今年の冬は寒い日が続きました。そして、心が寒くなる事件も続きました。もうすぐ春本番。暖かな春風を待ちたいですね。ひだまり29号をお届けします。特集は、皆様に好評な帽子などを作っている「ソーイング班」です。どうぞ紙面からも活躍の様子をご覧ください。

(佐々木サチ)

編集委員

- 阿部悦子 氏家洋子 加藤洋子 齊藤美智子 佐々木サチ 前田利子

平成27年度ロビーコンサート 予定

- 4月 ゴスペル ウィンクス
5月 混声合唱山元グリーンヒルズ
6月 櫻川流 江戸芸かっぽれ
7月 篠笛 山口流
8月 100回記念コンサート
9月 瓜生満美 オカリナコンサート
10月 亘理町赤十字奉仕団
11月 Dozen Notes (ピアノ・クラリネット演奏)
12月 仙台高専名取キャンパス 軽音楽部

8月は、100回記念コンサートを開催します。職員一丸のコンサートをお楽しみ下さい。



特集 ソーイング活動

手作り心を込めて

病院ボランティア「ひだまり」は、治療中の患者さん方に、より快適に過ごしていただけるようソーイング活動を行っています。

製作しているものは

- \*抗がん剤で治療中の患者さん用帽子
\*喉切開の患者さん用ネックエプロン
\*日常生活支援のためのバック類
\*緩和ケア病室で使用するリモコン入れ
\*緩和ケア病棟消毒ジェルカバー
\*集尿ビンカバー

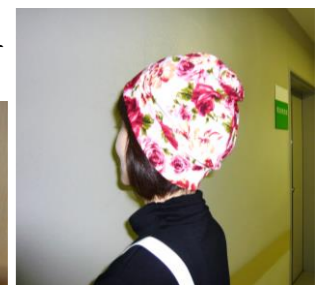
その他、患者さんに必要なものを手作りしています。

帽子1個が形になるまで

布地購入→裁断→ロックミシンで成形→しつけかけ→手縫いで千鳥くけの仕上げ

心を込めて仕上げています。

消毒ジェルにもカバーをつけました



ステキ・かぶりやすいと評判の帽子



ミシン操作はお任せください

ミシン専門ボランティアスタッフ

事務局企画総務課 阿部 智(ボランティア委員会委員)

「ボランティアの皆さんへ」
昨年4月に宮城県から機構への派遣で赴任して参りました。私は、宮城県に事務職で採用された最初の勤務地が野田山です。当時の名称は成人病センター、病床200床で職員は300人ほどで、のがんセンターに比べればコンパクトな施設でしたが、社会人としての最初の職場は非常に大きな施設だった記憶があります。今回、約四半世紀ぶりに野田山勤務となりましたが、がんセンターは病床383床で職員は約500人、委託業者などを含めると約700人の人が働いているからに大きな病院で、十一ヶ月過ぎてもまだ戸惑いばかりです。毎日は病院内で、私の住む町の町立病院でもボランティアについていまして、たが、病院に関心があり、その存在は、私を知っていましたが、ボランティアの皆さんへ」

今回、事務局の担当としてボランティア委員会に参りました。ボランティアの皆さんの活動に関わることに加し、ボランティアの皆さんも、なかなか皆さんと病院内で一緒に活動するわけではなく、委員会での活動状況の報告や定期的な書類として回ってくる日誌などで皆さんの活動の様子をうかがう程度にとどまっています。しかし、がんセンターでは100人もの方々がボランティアとして登録していて、外来活動、図書整理、ソーイング、ロビーコンサート、屋内外の緑の手入れ、緩和ケア病棟の各種行事などで、患者さんやその家族の方々のために療養環境を整える幅広い活動を行っています。事務的な調整役として少しは意識を強く感じています。後押しができればと思っておりますので、活動の中で気付いたことなどがあれば是非お知らせください。

# 平成25年度登録 ボランティアスタッフ 紹介



週2回、外来案内や移動  
図書・ギャラリー展示に  
来ています  
(荒川)



外来案内や葉っぱ・帽子作りなど  
ががんばっています  
(高橋)



ソーイング担当で、エコ  
バックを作っています  
(菊地)



緩和ケア病棟のエス  
マッサーと帽子仕上  
げを行っています  
(瀬野尾)



緩和ケア病棟エス  
マッサー専門です  
(松山)



緩和ケア病棟アロマ  
マッサー専門です  
(今野)



植物手入れを中心に活動して  
います  
(伊藤)

写真の七名以外にも  
平成二十五年度登録  
スタッフが活動して  
います。  
よろしくお願ひ致し  
ます。

## ボランティア研修会&意見交換会



病院ボランティア「ひだまり」は、平成26年度現在登録数が102名です。平成12年に活動開始以来、患者さんやご家族の方々に潤いのある環境作りや、不安を和らげる活動を宮城県立がんセンターで行っています。また、病院ボランティア「ひだまり」のスキルアップのため、年に数回研修会を開催しています。

今回は、病院ボランティアとして重要な車椅子、ベット移乗方法を研修致しました。引き続き、ボランティア活動10年継続のスタッフへの感謝状授与式 ボランティア活動を通して感じた病院への質問や要望を職員と話し合い、職員との交流も図る意見交換会も続けて開催されました。

日時 平成27年2月23日(月) 午後1時30分～4時

場所 がんセンター1階 大会議室

内容 【研修会】 「安心して安全な移乗方法について」 講師 理学療法士 阿部 順さん

【感謝状対象者】 ボランティア 加藤 睦子さん 眞壁 哲男さん

藤田 鐵子さん 佐藤 雅恵さん

【意見交換会】

病院側出席者 片倉 隆一 病院長 佐藤 純 事務局長

門間 京子 看護部部長 (ボランティア委員会委員長)

星 久美 看護部副部長 (ボランティアコーディネーター)

前田 利子 ・ 阿部 悦子 ボランティアリーダー



参加したボランティアスタッフからは、「研修会は、分かりやすくよく理解できました。とても意義のある講演と実技で来て良かったです。」と感想がありました。意見交換会では、病院各部署からのボランティア活動へのお礼の言葉もいただきました。ボランティアからの提案事項の車椅子用杖入れ購入なども了解され、病院とボランティアの相互理解のため価値ある交換会だったと思いました。

(前田)



真剣な表情の  
研修会



10年間のボランティア活動に院長  
からの感謝状を受け取る加藤さん



耳を傾けた  
意見交換会

## ボランティア販売品価格変更のお知らせ

ボランティア作製販売品は、布地の値上がりのため、平成27年4月より一部の品物に限り価格の変更をさせていただきます。よろしくお願ひ申し上げます。

\*通常の帽子は、600円に変更はありません



400円→500円

エコ  
バック



400円→500円

きんちゃく袋



400円→500  
円

腹巻帽子



300円→400円